

夏休み 寺子屋まつだ

夏休み中の生涯学習センターには、寺子屋まつだや図書館などに通う子どもたちの元気な声や笑顔があふれていました。

体験の夏！学びの夏！子どもたちは英語や運動に親しんだり、自主学習を進めたり、クッキングを楽しんだりしていました。また、「こども霞ヶ関見学デー」では文科省でのイベントを楽しみました。



7/10(金) 松田大名行列伝承教室

松田中学校1年生を対象に町無形文化財である松田大名行列の伝承教室が行われました。講師は松田大名行列保存会の皆さん。

はじめに、クイズ形式で松田大名行列の歴史や実際の取り組みなどを学びました。そして、保存会の皆さんの演舞披露を参観し、その後「お弓」「お箱」「毛槍」「大鳥毛」の体験を行いました。

生徒の皆さんの質問の多さや体験への積極的な姿勢が見事でした。長谷川会長をはじめ保存会の皆さんの思い（「150年続く大名行列が200年、300年続くものになってほしい。皆さんに引き継いでいきたい」）が伝わっていると感じました。

これを機に大名行列に参加したり、関わったりする人が増えることを期待したいです。



生涯学習だより

生涯学習推進課
(83) 7021

生涯学習係

松田 文化財探訪

My 二宮尊徳翁小伝 その15

文化財保護委員 草門 隆

あの金次郎像は何を物語る？

手に『大学』の書を開いていますが、そこには、「一家仁なれば一国仁興り一家讓なれば一国讓興り：」で一家に慈悲みや譲る精神を心得・実践すれば国中に広まる旨が刻まれています。

筆者が約十数年前、町のウオーキングの際、建替え前の小学校の像の近く（矢倉沢往還・境道）で話したところ参加者のお一人が突如その像の石台に駆け上り携帯していたペンライトで本を確認し「本当に書いてある」と驚いていたことが印象的でした。像は「負薪読書像」と言い

「報徳記」の中に「大学の書を懐に入れ歩きながら是を誦し怠らず」とあり、大学の書を、そらで覚え唱えている姿です。一歩踏み出しの像は、珍しくこれは

翁の行動力・実践力を示しているとも言われています。

翁没後50周年記念・明治33（1900）年、時の清浦商務大臣（後・総理大臣）は、この像は「前からは政治、後ろからは社会政策、上からは道徳、下からは経済」との名言を残されています。

凡人・筆者は「前は大学の書を読んでおり道徳で、後ろからはたきぎを背負っており経済（勤労・売却用）で、上からは翁の根本思想の御政道、すなわち政治、下からはかかどが上がり村民達に寄り添う姿として社会福祉」と読み替えてみました。

なお御政道についての詳述は六月号「その12」の『報徳論』の中で理由などを記しています。



金次郎像側面
(高30cm・私蔵)